

【別紙】 令和5年度 学校自己評価重点目標シート（川口市立 青木中 学校）

学校教育目標	心を豊く（徳力）・身体を豊く（体力）・習性を豊く（知力）
目指す学校像	心の教育を基盤とする「文武両道」を実践し、地域から信頼される学校

達成度	A ほぼ達成（8割以上）
	B 概ね達成（6割以上）
	C 変化の兆し（4割以上）
	D 不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日は、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者（教職員を除く）	9名
事務局（教職員）	4名

領域	学 校 自 己 評 価				年 度 詳 価（令和6年2月14日現在）	
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
組織運営	・ポストコロナにおける対応を計画的・組織的に進める。伝統を継承し、スクラップ&ビルドにより効率的でスリム化を進める。 ・人材育成を積極的に進めて、青木中の教育力を更に高めていく。	○チーム青木中として学校全体の組織的な対応 □伝統の継承と発展	○全教職員の共通理解・共通行動の徹底を図り、全ての生徒の学力向上と不登校支援率100%を達成する。 □ポストコロナにおける対応を計画的・組織的に進めるなかで、スクラップ&ビルドにより効率的でスリム化をする。	○学力向上策として、話し合い、学び合い活動等を全ての教員が積極的に取り入れ改善を図った。不登校生徒支援率100%に向けて一人取り残すことなく支援できた。 □運動会など伝統を継承しながら、時代に合った運営を進めた。教職員の教育力向上のための研修会等を実施し、指導力を高められた。	A B	・ポストコロナにおける対応をしつつ、より効率的でスリム化した対応を進めていく。 ・不登校生徒の学習支援としてタブレットを活用したオンライン授業を継続していく。 ・人材育成を積極的に進めて、青木中の教育力を更に高めていく。
教育課程	・基礎学力の確実な定着に向けて、生徒の理解力や学習の定着度を見極め、補習や家庭学習を含め全校体制で進めて青木中スタンダードを確立する。 ・小中連携を通して、日々の授業で生徒の学び合いを有効に活用していく。	○全ての生徒の学力向上 □道徳の青木中	○授業で見通しと振り返りを位置づけ、個別最適な学びと協働的な学びの表現をし、生徒に自信を持たせることを目指すために指導方法を工夫し、学習内容の確実な定着を図る。 □心の教育を基盤とし、教員相互の授業参観を他学年や他教科の授業から学ぶ機会とし、授業力を高める。	○本校生徒の学力のレベルは、埼玉県、川口市との比較で、3年生と2年生は上回り、1年生は県・市と同レベルという傾向がある。 □本校は、規律ある態度において8割以上の生徒が達成している。時刻を守る、集団の場での態度は、本校生徒の自覚を促す項目である。	A A	・各学科では生徒の学び合いなど具体的な方策を実施、成果を挙げた。基礎学力の確実な定着に向けて、生徒の理解力や学習の定着度を見極め、補習や家庭学習を含め全校体制のもと組織的に取り組んでいく。 ・全ての授業において、生徒の学び合いを有効に活用していく。
開かれた学校づくり	・学力向上や不登校対策に向けて、地域や保護者等の外部人材が教育活動を支える方法を取り入れる。 ・ポストコロナで感染症予防対策をとりつつ、地域との交流の機会をつくっていく。	○コミュニティ・スクールによる学校課題（部活動地域移行を含む）への連携・協働 □メールやHPを活用した情報発信の充実	○地域や保護者との積極的な会話をもちにその思いに寄り添って学校経営の理解と協力を得る。部活動地域移行に向け地区内ネットワークを構築し、同歩調で進めていく。 □学校HPやメールを随時更新し、積極的な情報発信ができるように確認する。	○部活動のスリム化に向けて、今年度より希望加入とした。朝練を中止し、コーラス部は人数減により次年度新入生の入部を停止する。 □保護者、家庭、地域等との連携を図るために、学校HPやメールを活用し、開かれた学校づくりに取り組んだ。制限の見直しを継続して進めることができた。	B A	・1月の不登校生徒の保護者相談会では、サポート校などの理解を深め卒業後の進路について家庭と共に考えられた。不登校生徒数は増えている現状を踏まえて、保護者の教育相談会を継続していく。 ・小中連携を通して学力向上と不登校生徒支援率100%に向け、3校合同の学校運営協議会や講演会、交流などの取組を継続していく。
教職員の資質向上	・多様化した教育相談や生徒指導に対応するため、実践的な研修を充実させていく。 ・人事異動で新たに着任した教職員がチームとして取り組むため、本校教育活動の理解を深めるよう全員で積極的に働きかける。	○学び続ける青木中の教職員 □信頼・尊敬される教職員の育成 ◇働き方改革の推進	○習手教員を主任等に充て、対話を基に育成を図る。研修や諸会議等で、ベテラン教員や同僚と積極的な意見交流をすることで、視野を広げさせる。 □服務規律を確立し、自分事と捉えて危機管理意識を高める。 ◇青木中学校業務改善スタンダードを積極的に進める。	○生徒の学び合いを積極的に取り入れるなど、授業力を高めている。授業参観や教科指導者を招請するなど授業改善に取り組んだ。 □管理職が率先して対話を基に明るい職場環境をつくり、全教職員が誇りをもって日々の指導に尽力した。 ◇先輩から若手への助言をもとに、健康第一に考えた勤務、時間を意識した勤務を進め、働き方の改善を進めている。	A A B	・学力向上と多様化した教育相談や生徒指導に対応するため、実践的な研修を充実させていく。 ・人事異動で新たに着任した教職員がチームとして取り組むため、本校教育活動の理解を深めるよう全員で積極的に働きかける。 ・先輩から若手教員への助言をもとに、健康第一に考えた勤務、時間を意識した勤務を進め、働き方の改善を進めていく。
施設・設備等の管理	・先進校から積極的に学び、本校の教育活動を更に高めていく。 ・目標トイレ改修など大規模な修繕箇所について市教委と連携をとりながら計画的に進めていく。	○デジタルの青木中 □施設事故ゼロに向けた施設・設備管理の徹底	・デジタル化を進めるため、校務PC、タブレットを活用し、効率的な業務を遂行する。 □計画的な修繕を実施し、公費管理、会計処理の複数チェックと監査	○新校務支援システムを積極的に活用するなどデジタル化を進めた。 □校内巡回をもとに、計画的に素早い修繕を徹底し、事故ゼロ。今後も教職員への危機管理意識の徹底を継続指導していく。	B A	・大規模な修繕箇所について市教委と連携をとりながら計画的に進めていく。予算に限りがあるためPTAや教育後援会と連携を図り、清掃等学校の取組で賄えるものは引き続き努力していく。 ・先進校から積極的に学び、本校の教育活動を更に高めていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年2月15日
出席者	学校関係者（教職員を除く） 9名 事務局（教職員） 4名
学校関係者からの意見・要望・評価等	・不登校生徒支援率100%の基準について、本校は週1回の教育相談部会で欠席が多い生徒の対応を速やかに確認している。担任だけでなく、学校全体で状況を把握して対応している。 ・学力向上策として、全ての教科で授業中の話し合い、学び合い活動等を積極的に取り入れた。数学は昼休みの時間で生徒同士の学び合いにより、基礎的な計算技能を高めた。英語はデジタル教科書を活用し、5ラウンドよりリスニングの力をつけた。 ・学力アップ教室は、川口市教育委員会主催で中3生徒対象、入試対策として基礎基本を中心に、テキストを基に行っている。青木中は12月から土曜午前希望者を募り実施した。指導者は元教諭や教員を目指している大学生。 ・コーラス部の新入生入部停止の現状について、3年生が引退後の部員数は7名。2月の大会参加のため、他校と合同チームで出場した。現教員が引退するまでは責任を持って指導していく。 ・本年度、市教委の指導により部活動の朝練習を中止した。放課後の活動を充実させている。土日の部活動について、青木中学校部活動方針に則り、休業日は3時間程度で、休業日を設けている。 ・本校の働き方改革は、現在（2/15）定時退勤ワーク実施中であるが、11月に時間外在校時間80時間を超えた教員がいたことから、まだ推進途中である。勤務期間の8時20分～18時50分に合わせて、次年度日課表を早退した。 ・本年度卒業アルバム編集委員に伴い、個人購入に変更した。PTA会長の助言により、締切前に保護者へメール配信で再度通知をし、購入漏れがないようにした。業者と契約の段階で過去の購入実績を基に販売価格を設定している。